

<株式会社エフエム東京 第 4 4 3 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 29 年 11 月 14 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（4 名）

横 森 美 奈 子 委員長

内 館 牧 子 委員

ロバート キャンベル 委員 川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（2 名）

渡 辺 貞 夫 委員

秋 元 康 委員

◇社側出席者（11 名）

富木田 代表取締役会長

千 代 代表取締役社長

平 専務取締役

吉 田 常務取締役

村 上 取締役営業局長

西 川 常勤監査役

森 田 執行役員編成制作局長

兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長

延 江 営業局エグゼクティブ・プランナー

宮 野 編成制作局編成部長

若 杉 編成制作局制作部長

高 橋 編成制作局制作部プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約 23 分）

『五線譜の解体新書』

2017 年 10 月 15 日（日）20:00～20:30

22 日（日）20:05～20:30

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■TOKYO FM『ミュージックドキュメント 井上陽水×ロバート キャンベル
「言の葉の海に漕ぎ出して」』が第 13 回日本放送文化大賞 グランプリ受賞

11 月 7 日、第 65 回民間放送全国大会が開催され、「第 13 回日本放送文化大賞」ラジオ部門において、TOKYO FM 特別番組『ミュージック ドキュメント 井上陽水×ロバート キャンベル「言の葉の海に漕ぎ出して」』（2016 年 11 月 23 日 19:00～20:47 放送）がグランプリを受賞致しました。なお、日本放送文化大賞で当社のグランプリ受賞は、2007 年（第 3 回）の「SCHOOL OF LOCK!」以来 10 年ぶり。また当番組は、「文化庁芸術祭」優秀賞、「ギャラクシー賞」優秀賞、「日本民間放送連盟賞」ラジオ教養部門 優秀賞に次ぐ 4 つ目の受賞がグランプリという快挙となりました。

この日本放送文化大賞は、グランプリ・準グランプリ受賞番組を多くの皆さんに視聴・聴取していただくために、原則として表彰から 3 ヶ月以内に全国放送が行われることが特徴になっており、FM 作品は全国 52 の FM 局で再放送されます。

＜日本放送文化大賞審査員の講評より抜粋＞

井上陽水とロバート キャンベルの対談というユニークな企画で、音楽と言葉の“海の旅”が楽しめる。あいまいな日本語をロジカルな英語で詰めていく二人のやり取りがおもしろく、英語を鏡にすることで日本語の豊かさを伝えている。聴く人それぞれの時代の記憶と陽水の歌があいまって、幅広いリスナーが楽しめるクオリティの高い知的教養番組に仕上がっている。

【番組概要】

《番組タイトル》 TOKYO FM 特別番組 ミュージック ドキュメント
井上陽水×ロバート キャンベル「言の葉の海に漕ぎ出して」

《放送日時》 2016 年 11 月 23 日(水・祝)19:00～20:47 放送

《出演者》 出演：井上陽水、ロバート キャンベル（日本文学研究者）、三上博史（歌詞朗読）

《スタッフ》 プロデューサー：延江浩、増山麗央（TOKYO FM）

演出：木村尚志、伏見竜也 演出補助：伊藤慎太郎 構成：小林浩子

■『FM Festival 2017 未来授業 ～明日の日本人たちへ』を開催

TOKYO FMをはじめとするJFN38局が毎年実施している、未来を担っていく大学生たちにエールを送る企画『NISSAN presents FM Festival 2017 未来授業～明日の日本人たちへ～』を今年も開催しました。日本を代表する“知のフロントランナー”と、現役大学生とが自由闊達な討論を通して、未来を生きるヒントを探っていく企画です。8回目を迎えた今年のテーマは、「AIは産業・社会の何を変えるのか?」。10/15東京会場には、人工知能研究の第一人者・松尾豊氏、ゴリラ研究で知られる霊長類学者で京都大学総長・山極壽一（やまぎわ じゅいち）氏、数々のヒット作を生み出している映画プロデューサー川村元気氏。10/7札幌会場には、初音ミク生みの親・伊藤博之氏、10/9名古屋会場には、工学博士 佐藤理史（さとう さとし）氏を講師に迎えました。3会場のべ350名の大学生が参加し、参加学生からは様々な質問が寄せられ、5人の講師陣とディスカッションが繰り広げられました。

★松尾豊氏

「人間らしさとは何か?我々はどういう社会を作りたいのか考えていかなければならない」

★山極壽一氏

「機械と人間の“生きた知性”が違うのは、100%信頼できずに追いかけていくということ」

★川村元気氏

「『死ねる』っていうのは、もしかしたら、人間にとってのものすごいアドバンテージ」

★伊藤博之氏

「AI時代になった時に、対象に対する愛着みたいな性能以外の関係がすごく重要」

★佐藤理史氏

「コンピュータが小説を書けたというのは、小説を書く機械的な方法がわかったということ」

この模様は、11月3日(金・祝)16:00～19:00に全国38局ネットで放送しました。



▲東京会場 講師との集合写真



▲山極壽一氏の講義

■『JET STREAM 50th Anniversary Special Concert “Flight in Concert” by JAPAN AIRLINES』開催

11月5日(日)、『JET STREAM』放送50周年の感謝を込めて、番組の世界観を味わえる一夜限りのプレミアムコンサート『JET STREAM 50th Anniversary Special Concert “Flight in Concert” by JAPAN AIRLINES』を、東京国際フォーラム・ホールAにて開催しました。コンサートナビゲーターは『JET STREAM』5代目機長 大沢たかお氏。音楽監督は、日本を代表する作編曲家として知られる服部克久氏。演出は、ジャンルを超えた多くのアーティストの演出で知られる演出家・菅野こうめい氏。アーティストゲストには、新妻聖子氏、尾上松也氏、古澤巖氏、ジャー・パンファン氏、屋比久知奈氏の豪華5組を迎え、会場を埋め尽くした4,500名の観客を音楽で巡る世界旅行へ誘いました。



▲新妻聖子と尾上松也



▲古澤巖



▲全出演者による20分間の世界一周メドレー



▲5代目機長 大沢たかお

【演奏曲目】「Mr.Lonely」／「The Earth」／「New York,New York」／「On My Own」／「Stars」／「Time To Say Good Bye」／「ニーノ・ロータ・メドレー」／「トトとアルフレード」／「蘇州夜曲」／「My Heart Will Go On」／「シェルブールの雨傘」／「Sunrise Sunset」／「South Pacific Medley」／「How Far I'll Go」／「A Whole New World」／「Someday My Prince Will Come」／「世界一周メドレー」／「What a Wonderful World」／「自由の大地」／「Mr.Lonely」

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○『言の葉の海に漕ぎ出して』を聴いたが、TOKYO FM の良心のような番組だと感じた。この二人を組み合わせたということも素晴らしい。日本放送文化大賞グランプリ受賞は納得する。

■当初は飲みの席での会話で生まれた企画。兼ねてより「言葉」に対しての危機感を感じ、また、ネット社会での言葉の危機を考えていたが、去年は、アメリカ大統領選での言葉の争いや、ボブ・ディランのノーベル文学賞受賞など、言葉についてを考えるキッカケの多い年だったこともあり、番組を制作した。ロバートキャンベルさんと井上陽水さんの意気投合もあり、少しずつ、丁寧に形にしていった思い入れのある番組。

○『未来授業』については、過去講師をつとめたことがあるが、多くの若者が大変真摯に熱い想いをぶつけてきて、「日本はまだまだ捨てたものではない」と感じたのを覚えている。これからも継続して欲しい企画。今年度に関しては山極壽一先生が出演されたとのことで、これはすごいことだと思う。大変権威のある方で、私も一度話を聴いてみたいと思っていた。

○『JET STREAM 50th Anniversary Special Concert “Flight in Concert” by JAPAN AIRLINES』は、入場 4,500 名とのことだが、応募・招待制だったのか？

■応募制ではなく、チケットを販売した。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『五線譜の解体新書』

【放送日時】 2017年10月15日（日）20:00～20:30
10月22日（日）20:05～20:30

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、毎週日曜日の20:00～20:30に放送している『五線譜の解体新書』の10月15日、22日放送のダイジェストです。

この番組は、日本を代表する音楽家に、時代を超えて愛されている名曲の誕生秘話、その楽曲の魅力を紐解いていく＝解体してゆく、音楽の「解体新書」として今年の4月から放送しています。一般社団法人 日本作編曲家協会（JCAA）が制作協力に入り、その会長である作編曲家の服部克久氏が準レギュラーとして出演。進行役をフリーアナウンサー加納有沙がつとめています。

2017年4月にスタートし、これまで宮川彬良氏、前田憲男氏、都倉俊一氏、萩田光雄氏、川口真氏、服部隆之氏、すぎやまこういち氏、三枝成彰氏、村井邦彦氏といった日本を代表する作曲家・編曲家をゲストにお迎えしています。

10月15日、22日の放送回では、山下達郎氏を2週にわたりゲストに迎えて、服部克久氏とラジオで初めてとなる対談が実現。これまで山下達郎氏や竹内まりや氏の数々の楽曲のオーケストレーションを手がけてきた服部克久氏が、二人にゆかりのある曲の制作秘話を語り合いながら、その曲がどのように出来上がっていったのか、名曲たちを「解体」していった回です。

■オンエア楽曲

10月15日（日）

・煙が目にしみる／山下達郎

10月22日（日）

・ずっと一緒さ／山下達郎

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○とても高級感のある番組だと感じながら拝聴した。普段楽器を演奏するなど音楽に携わる人、音楽が好きで良く聴く人、音楽にあまり興味がない人、番組を初めて聴く人、いろいろな人がいると思うが、いずれの人にも親切に作られている番組だと思う。会話のテンポや進行役の女性のバランスも良く、とても開かれた印象のある番組。

○途中で流れた楽曲も素晴らしく、丁寧に作られていてクオリティの高い番組だった。スタジオでのトークとオンエア楽曲にギャップが生じ多少の違和感のある番組もある中、この番組は会話のテンションと楽曲のギャップを感じず、とてもなめらかに感じた。

○ゲストのお二方が互いにリスペクトし合っているのが伝わって来て、しかし、ともすれば褒め合いで終わってしまうところ、番組の中では互いの才能に言及しつつ、そこに日本の音楽シーンへの批評などが織り交ぜられていて、批評性も含んだ大人の番組であると感じた。

○番組のリズム・ペースもとても良かった。進行をつとめる女性が開かれた豊かな声で、番組を聴き始めた冒頭から期待を感じながら聴いた。

○音楽を作っている人にとっては、この回の内容はどうやって名作が作られるのかという観点で聴くことができただろうが、そうでなくても、例えば服部克久さんが山下達郎さんの声について、「声とビオラがとても色気があって、しっとりしていて、相性がいいと直感で感じた」と解説していたが、それは、音楽だけではなく、ものを書くことやその他のクリエイティブにあっても、出だし、発端が大切ということは通ずるのではないかと思う。曲ができることとサウンドができることは違う、勉強できる部分とできない部分とがあるという違いなど、音楽だけじゃなく他のことにも応用ができると思った。

○番組内で山下達郎さんがおっしゃっていた、ひとつひとつの言葉、「ラインがキレイ」や「語りすぎない」等がとても立っていた。刺激的な番組だった。

○『五線譜の解体新書』は良い番組タイトルだと思う。30分という番組時間も聴きやすく良いと思うが、裏を返せばこれだけの豪華キャストを迎えても30分しかないという意味。毎回大変豪華なゲスト迎えているので、この30分をどう活かすか構成の勝負かと思う。導入の部分でゲストのお二方の馴れ初めやバ

ックグラウンドの説明が少し長く、メインである早く音楽の解体に入って欲しいと感じた。せっかくこのお二方が揃ったのでここでしか聴けない話に時間を割いて欲しい。全く何の説明なしでいきなり音楽の話に入るのではなく、もちろん前段の説明も必要かと思うが、この部分の説明はもっと短くてもいいのではないかと思う。

○どこまで楽屋話にしないか、も重要かと思う。もちろん一般リスナーにとっては楽屋話も、気になる聴きたい話だと思うが、じゃあどこまでかという線引きも、構成の大きな役割かと思う。

○音楽の解体部分は、リピートしていて分かりやすかった。取り上げる音楽を、解体する前に聴かせるのか、解体してから聴かせるのか、それとも解体する前に聴かせ、解体したらもう一回聴かせるのかという部分は、今回解体してから聴いてとても分かりやすかったので工夫が必要なポイントだと思う。

○番組の最後でゲストお二方がお互いの魅力を言い合う部分があったが、この時間も不要だと思った。これだけの方なので単なる褒め合いにはならず、面白いコメントではあったけれど、時間的なことを考えるとこの部分も音楽を解体する時間に費やして欲しかった。個人的な感想だが徹底的に音楽の解体に費やして欲しかった。

○日曜のこの時間にラジオを聴く習慣がないため、初めて聴く番組だったが、TOKYO FMに横文字の番組タイトルが多い中、『五線譜の解体新書』という感じを使った堅いタイトルは珍しいなと思った。タイトルは堅いなと思ったが、大変素直に聴ける番組だった。長編小説などもそうだが、音楽のような見えないうものを作るといことは、つかみどころがなく知り得ないことが多いけれど、この番組を聴いて、触れさせていただいた。例えば、音楽を作ることとは、感性というか、インスピレーションからくるものだと考えがちだが、このお二方の話を聴いて、とても職人的だと感じた。どういう風に楽曲に落とし込んでいくのか、など垣間見られて興味深かった。聴き終えて、『解体新書』というタイトルが腑に落ちた。

○山下達郎さんはとても魅力的な方で、声ももちろんだが話し方が本当に素敵で、30分と言わずもっと聴いていたかった。作家同士のオマージュということも、これだけ世間でも別ジャンルと言われている方たちが行っているのも大変新鮮だった。大変良い番組。

■一般のリスナーの方は「編曲」というのがどんな作業なのか知らない方がほとんどだと思うので、この番組を通じて「編曲」というのはどんなことなのか、「作曲」というのはどんなことなのかを知って頂くきっかけになれば良いと思ってスタートさせた番組。

○音楽雑誌などで読む内容などもあるかも知れないが、このような肉声での対談、そして楽曲が流れるというのは格別である。

■企画段階で、このような音楽界の巨匠といわれる豪華ゲスト陣たちに、素晴らしいエピソードがあること分かり、「アレンジ」ということをリスナーに提供できるかもしれないという想いからスタートした。シンガーソングライターがスポットを浴びる中で、「アレンジ」というエピソードが出てくることはとても意味があると感じて企画し、制作している。懐メロにならない現代性も意識している。

○服部克久さんの音楽を聴くことは大変多くても、お話を聴くことがあまりないので、人柄が感じられ、とても貴重だった。

5.放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS」

11月25日(土) 7:00～7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、12月5日(火)に開催することを決めた。